



インスピレーションになるろう
RI会長 バリー ラシン



2018-2019年

Rotary District 2640 Japan

海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

会長 山畑 弥生 幹事 中村 俊之 SAA 田岡 郁敏

第 1967 例会

平成 30 年 8 月 27 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

会員卓話 地区協報告

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. 出席報告
 会員総数 42 名 出席者数 25 名
 出席率 59.52 % 前回修正出席率 64.29 %

4. 会長スピーチ 会長 山畑 弥生 君

皆さん、こんにちは！残暑厳しくて、実りの秋がこいしく感じられる今日この頃ですが、先日のガバナー公式訪問では、榎畑ガバナーのアドレスがととても素晴らしく、そして、メンバーの皆さんもジャケット姿の出席で例会が引き締まった様に感じ本当に素敵でした。



その例会前に、榎畑ガバナーと谷脇ガバナー補佐、そして会長、幹事で事前懇談会が和やかな雰囲気の中で約 1 時間余り行われました。(途中から寺下会長ノミニーも出席です) 主にクラブの状況についてのお話でしたが、其のお話の中で当クラブは、星☆五つを頂きました。五つ星と云いますとミシュランガイドの様ですが 要するに社会奉仕、国際奉仕、親睦等の活発な活動&米山、ロータリー財団への寄付&RI や地区への上納金の納付等において優秀なクラブだと云うことでした。我がクラブが、とても誇らしく思い、会長として、この様な喜びを与えて頂いた皆さんに先ずは、ご報告と御礼を申し上げたいと思います。

さて、本日は、去る 8 月 9 日(木)の定例理事会議事録の開示に伴い補足説明をさせていただきますのでテーブルに置いてあります議事録をご覧ください。

主な報告事項は、協議事項 2) 子供食堂の支援についてですが、こども食堂のはじまりは 2012 年に東京都大田区の「気まぐれ八百屋だんだん」店主の近藤博子さんが、朝食や夕食を食べられない貧困家庭

の子供や孤食の存在を知り開設したとのことです。そして、テレビなどのマスメディアで多く報じられ活発化して行き、現在では、子供やその親、高齢者の孤食防止など、多世代の交流の場としても注目を集めているそうです。子ども食堂は、現在全国で 2,300 ヶ所、内和歌山県では 27 か所開設されていますが 7 人に 1 人が貧困家庭で(其の内、大半は、母子家庭で 2 人に 1 人が貧困家庭)と云うことで、まだまだ足りないそうです。子供食堂を立ち上げるには、地域の事業所やボランティア団体等が、県に申請(条件をクリア)すれば開設許可が下り、県から幾らか補助金がおとりて来るそうです。当クラブは、前年度に引き続き本年度も社会奉仕委員会の活動として海南市内海「きうちこども食堂」&黒江「オナカスイータ小さな家」の 2 施設と本年度新しく開設されました紀美野町動木集会所の「きみの子ども食堂 通称キノコ食堂」の合計 3 施設に、それぞれ 3 万円ずつ寄付すことを承認致しました。又、お手伝いをして下さるボランティアの募集や、野菜等の食材の寄附のご協力をお願いしますとのことです。

協議事項 5) クラブ戦略計画委員会開催についてですが、理事会にオブザーバーとして宮田委員長に出席して頂き検討した結果、委員会のメンバーは、副委員長にクラブ会長の山畑、委員には、元会長 5 名 深谷さん、谷脇さん、花田さん 上野山さん 中西さん、そして、クラブ幹事 中村さん、会長エレクト 寺下さん。後期には、会長、幹事ノミニーも加わります。尚、元会長の皆さんは、ローテーション制で委員会メンバーに入ります。開催予定は、前期 1 回、後期 1 回の予定です。第 1 回目の開催は、8 月 30 日(木)に開会致しますので、後日皆さんにご報告致します。

協議事項 8) その他で台湾彰化東南 RC との友好クラブ締結について、本年度、更新期限が来ており、相互のクラブ訪問時に締結書更新します。本年度は当クラブへ来訪予定ですので、その折はご協力宜しくお願い致します。

では後程、中村幹事、田岡 SAA が本日の卓話を行います。宜しくお願い致します。

8 月は会員増強・新クラブ結成推進月間

(Membership and New Club Development Month)

四つのテスト 実行はこれにてらしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深められるか
- ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

和国での暴力行為から逃れてこの地にたどり着きました。殺害すると何度も脅迫されたため、ウガンダに渡り、89,000人が暮らす184平方キロの難民居住地で友人と合流しました。

26歳になる物腰柔らかいムシャホさんはIT系の学位を有しており、住居を兼ねた木造の店舗で送金サービスのビジネスを営んでいます。



ムシャホさんは、コンゴやブルンジ、ソマリア、エチオピア、エリトリア、ルワンダ、南スーダンなどから来た難民に対し、携帯電話を使ってウガンダ国外の家族や知人からお金を受け取れるというサービスを提供しており、ビジネスは大繁盛しています。

また両替サービスも行っており、利用者が多すぎて現金が不足してしまうこともあります。この日ムシャホさんは、最寄りの銀行でお金を下ろして戻ってくる友人を待っていました。最寄りといっても2時間も離れたムバララの街にある銀行です。

木製機の椅子に腰掛け、取引台帳と携帯電話7台を駆使するムシャホさんですが、帰りの遅い友人に焦りはどんどん募っていきます。お金が間に合わず顧客から手数料が取れなくなることを焦っているのではなく、お金を渡せないまま顧客を帰してしまうことが気がかりなのです。

「お客さんを待たせたくはありません」外の道を眺めながらムシャホさんは言います。店の外にはトタン屋根のお店が立ち並び、トマトや木炭を売る女性たちや、店頭で牛肉を並べている精肉店、バイクの上で時間を潰す若者たちで賑わっています。

「彼らには他に頼れる人がいないんです」とムシャホさん。ムシャホさんは地域社会に住む人びとの暮らしを良くしたいと願う若き起業家であり、生粋のローターアクト（ロータリーが支援する18~30歳までのリーダーの組織）であると言えます。

しかし、ムシャホさんの背景や所属するクラブの状況は極めて異例です。ムシャホさんのナキバレ・ローターアクトクラブは2016年下旬に設立され、翌年7月に正式に発足しましたが、難民居住地や難民キャンプを拠点とするローターアクトクラブとしては世界初であると考えられます。クラブのメンバーや難民の生活にとってナキバレ・ローターアクトクラブとは、紛争でも自分たちの夢を諦めなかった若者たち、祖国を離れた人びとの人間愛が存在する国家、そして想像を絶する悲劇を経験した人びとを支える奉仕の精神の上に成り立つ団体なのです。

難民を迎え入れてくれる場所

ナキバレは一般的な難民キャンプとは異なります。



184平方キロの敷地に3つの市場があるナキバレは、ウガンダ南西部のごく一般的な農村地帯を思わせる場所です。その起伏のある土地にはバナナの木やシロアリの塚があり、ロングホーン牛の群れが暮らしています。

ナキバレは、ルワンダ独立に伴う紛争から逃れてきた難民を收容するため1950年代に作られた街であり、今ではすっかり周りの風景に溶け込んでいます。しかし、ここ数年間でナキバレの人口は増減を繰り返しています。これは南スーダンの内戦やソマリアの国家崩壊、暴動や武装勢力によるコンゴ西部の恐怖支配といった地域紛争から逃れてきた人びとを受け入れていたためであり、特にコンゴからの難民はナキバレの現在の住民の半数以上を占めています。多くの人がここに1~2年ほど住んでおり、中には数十年住んでいる人もいますが、ほとんどがナキバレを自分たちの故郷として考えています。

この地域の他の政府とは異なり、ウガンダ政府は新しく避難してきた人びとに耕作地を付与し、簡易住宅を建設するための資材を提供することで自立を促しています。また難民のこどもたちは無償で初等教育を受けることができ、経済に貢献できるよう働く機会も与えられています。

ウガンダの国境付近では150万人の難民が保護されており、難民登録された人は自由に国内を移動することができます。難民が都市でビジネスを営むことができれば、理論的には彼らを一カ所に閉じ込めておく必要はありません。「彼らは一般の人のように自由に生活することができるようになります」と説明するのはアメリカ難民委員会（ARC）のウガンダ地域部長バーナード・オジャン氏です。ARCはナキバレ・ローターアクトクラブと緊密に連携している団体です。「豊富な耕作地のお陰でウガンダ政府は寛大な難民政策を実施することができていますが、このシステムは難民を『負担』ではなく『資産』として捉えるという高いレベルの信念を反映していると言えます」とオジャン氏。

「ウガンダは、難民を『お荷物』などではなく『チャンス』として捉えることで、実際にたくさんの変化が起こっていることに気付いたのです」

変化を起こす人のアイデア

「難民は変化を起こす人びとである」という発想が最終的にローターアクトクラブの設立へと繋がりました。（以下、省略 My Rotary ニュースから）

